



大会でベスト4入り。昨年の高校選手権では、愛知第2代表として初めて東海大会へと駒を進めた。

3年連続で、聖カピタニオ女子と安城学園の顔合わせとなった愛知県総体決勝。モチベーション高く試合に入った安城学園は、序盤から粘り強い守備で相手を苦しめた。しかし、一瞬集中力が途切れたところをつかれて失点すると、気持ちを立て直せないまま、失点を重ねる。都築麗緒奈のゴールで一矢報いたが、1-4で敗戦。7度目の挑戦でも女王を仕留めることはできなかった。

キャプテンの榎本梨乃は「二つ詰めても、もう一つが詰め切れず、センタリングを上げられたり。一瞬首を振らなくて、マークを外してしまったり。ちょっとした細かいことを怠ったため、優勝を逃してしまった」と悔やんだ。

しかし同時に、「1年生の時は、正直何も覚えてない、というか思い出したくないくらいコテンパンにやられた。でも、去年、今年と少しずつ近づいているという感覚がある」と手応えも感じていた。

「カピタを倒して、愛知県で1番になりたくて安城学園を選んだ」という2年生の千賀夏希は、「去年は自分たちがボールを持つ時間を増え、点差も縮まった。でも今年の県総体では自分たち以上に、カピタが強くなっていると感じた」と冷静。「それに負けないよう、選手権までにはもっとパスを磨いて挑みたい」と決意を新たに取組む。

**リスペクトする相手が目の前にいるという幸せ**

中野監督の熱いまなざしは、自チームの成長だけでなく、愛知の女子サッカー全体のレベルアップにまで及ぶ。

日本一の激戦が繰り広げられる千葉県男子を例に挙げ、「流通経済大柏と市立船橋がいて、全国大会より厳しい県大会を戦っている。そういう環境があるからこそ、どこが出る」と分析。さらには言葉をつなぐ。

「流通経済大柏のキャプテンが、全国優勝した後、今まで一番苦しかった試合

# 安城学園 高校

Anjogakuen High School

## 女王の好敵手 であり続けるという矜持

女王の背中を追いかけ、  
県内強豪校へと駆け上った安城学園。  
今年こそ女王を倒し、悲願の全国切符を手に入れる。

負けられない理由  
**Pride**  
愛知の女子高生サッカー

### 女王の背中を追う 雑草なでしこ

安城学園には、女王・聖カピタニオ女子高のライバルだという自負がある。

初心者3人から始まったチームは、創部12年目を迎えた今も、サッカー経験者は半数。それでも、「正しいチャレンジ」を積み重ね、「愛知県で優勝して、全国大会出場」という目標に一歩ずつ近づいてきた。

熱心な中野篤監督のもと、「強くて、魅力的で、やりがいのあるサッカー」をチーム哲学に、結果にこだわることはもちろん、選手がやりがいを感じ、観る人に影響を与える魅力的なサッカーを追求してきた。

2014年の新人戦で初めて県大会のファイナリストとなると、以降はほぼ全ての



カパリングが光るCBのキャプテン榎本梨乃(左)

は？」と聞かれて、「昨日の紅白戦が一番苦しかったです」って答えていた。

全国大会の決勝より紅白戦が苦しいって、カッコいいでしょ。強くなるわけだよね。最もリスペクトする相手が目の前にいるという幸せ。こういう状況をカピタとアンガク、究極的にはチーム内に作る事ができれば、愛知のレベルはもっと高くなる。

カピタに「県大会めんどくさいな」と思わせる存在であり続けたいですね」

もちろんいつまでも「2番手」に甘んじるつもりはない。7月に行なわれた県高校大会では、聖カピタニオ女子高と決勝を戦い、1-1の引き分け(雷のため中断。大会規定により両校優勝)。ついに創部以来の悲願だった県大会優勝を果たした。

カピタの背中を追ってアンガクは強く  
なった。その恩に報いるためにも、アンガクは女王・カピタに全力で挑み続ける。

アンガクが女王を敗る日。それは愛知の高校女子サッカーのレベルが新たなステージに到達した日となるはずだ。



アンガクの得点源、都築麗緒奈(右)

### TEAM DATA

▶監督/中野篤 ▶マネージャー/神谷千尋 ▶部員数/23名

決まった練習場所もなく初心者集団でスタートし今年で12年目。地道な成長を目指した歴代部員が2014年度、とうとう県ファイナリストに。2016年度高校選手権で初の東海地区予選進出。「強くて、魅力的で、やりがいのあるサッカー」を目指し続けることがチーム哲学。高いポテンシャルと魅力的な個性が集まった3年生、野心を内に秘め成長し続ける2年生、先輩を必死で追いかける1年生が一丸となり悲願の県制覇と全国出場を目指す



**KEYPLAYER MF 千賀 夏希 (2年・158cm)**

アンガク伝統の“中盤の三角形”を1年次から担う。ひとつ向こうを見る視野の広さとマッチアップでのクレーバーかつ闘志あふれるプレーが魅力。ポジションを一つ上げた今シーズンからは、自ら相手バイタルに侵入する判断力にも磨きをかけている。フィニッシャーとしての技術も高い。2016県U18トレン、2017県国体候補。

氏名	ポジション	学年	出身チーム
榎本 梨乃	DF	3	西尾市立西尾
都築麗緒奈	MF	3	半田市立乙川
木村菜々花	MF	3	NGUラブリッジ名古屋
杉浦 茜	DF	3	AOMIレディース
横井 梨果	MF	3	セレージャ FC
神谷 千尋		3	
今井美沙希	GK	3	
田淵 佑依	MF	3	
千賀 夏希	MF	2	AISAI FC
山下 はな	DF	2	岡崎市立竜南
中本 莉緒	DF	2	
中野 珠実	FW	2	
二宮 楓香	MF	2	

氏名	ポジション	学年	出身チーム
上田のぞみ	GK	2	
小柳 愛実	MF	2	
大岡 美聡	MF	1	豊田レディース
菱田 凜	DF	1	NGUラブリッジ名古屋
恒川 青空	GK	1	NGUラブリッジ名古屋
吉 菜摘	MF	1	YSS al futuro
戸本 風郁	FW	1	FC スピカ
金子 紗椰	MF	1	岡崎市立竜南
鈴木 彩花	DF	1	
森 愛菜	DF	1	